

ホットライン

2010年

## 意見交換会

アラン・シーター

欧州委員会対外関係総局 北米・東アジア・欧州担当局長

SEATTER, Alan

Director North America, East Asia, Europe, DG External Relations, European Commission

日時：2010年9月15日（水）10:30～12:00

場所：駐日欧州連合代表部

司会：野上 義二 財団法人日本国際問題研究所理事長

コメンテーター：渡辺 啓貴 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授

鶴岡 路人 防衛省防衛研究所研究部教官

## 参加者一覧（敬称略、五十音順）

アルバドリ・ドミニク	欧州連合駐日欧州連合代表部政治経済部政治分析官
安藤 研一	静岡大学人文学部教授
伊藤 さゆり	ニッセイ基礎研究所主任研究員
円居 総一	日本大学国際関係学部教授
高澤 洋志	（財）日本国際問題研究所研究助手
鶴岡 路人	防衛省防衛研究所研究部教官
内藤 昌平	元駐ベルギー日本国大使
中村 英俊	早稲田大学政治経済学術院准教授
野上 義二	（財）日本国際問題研究所理事長
羽場 久美子	青山学院大学国際政治経済学部教授
東野 篤子	筑波大学社会・国際学群国際総合学類准教授
ベーコン・ポール	早稲田大学国際教養学部准教授
森井 裕一	東京大学大学院総合文化研究科准教授
柳 秀直	前駐独大使館公使
山下 英次	大阪市立大学大学院経済学研究科教授
横川 和穂	（財）日本国際問題研究所研究員
渡辺 啓貴	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授

## 意見交換会の概要

今回、アラン・シーター欧州委員会対外関係総局北米・東アジア・欧州担当局長は、今年4月に行われた日・EU首脳会議の成果として発足した「合同ハイレベルグループ」会議のために来日した。本意見交換会は、この機会を利用して日本の有識者と日・EU関係のさらなる深化についての意見交換を行いたいとのシーター氏の希望により、日本国際問題研究所が主催したものである。会合にはEUの政治、経済、安全保障などの専門家が集まり、日・EU間の政治的パートナーシップのあり方、FTAや国際通貨システムなどの経済問題、PKO活動における日・EU協力といった、幅広い問題をめぐって議論が行われた。

## シーター氏基調報告

はじめにいくつかの興味深い世論調査の結果を紹介したい。1つ目はアジアの人々を対象にした国連の世論調査で、「アジアでもっとも影響力のある国はどこか」という質問に対し、日本は中国を上回りアメリカに僅差の第2位という結果だった。2つ目はBBCの定期的な世論調査で、日本は世界で最も尊敬される国と見られている。3つ目は、日本では国民の69%が将来何らかの紛争に巻き込まれる可能性があるかと懸念しているというものだ。この世論調査の結果からも、EUは日本が世界でより重要な役割を果たすことを期待しており、これまで日・EU間で築いてきた緊密な経済関係に加え、政治的な面でも我々の協力関係が深まることを希望している。

我々がそう考える理由は、第1に、我々が共通して直面する脅威や問題の存在である。今日の世界の成長のダイナミズムは、新たな人々、新たな考え方から生じている。他方、EUも日本も残念ながら人口の減少と高齢化が進んでおり、共に経済に貢献する主要な層を失いつつある。第2に、ドイツや日本の輸出主導の成長モデルは、今日の新興国のパワーを前に限界に達している。第3にエネルギー安全保障で、欧州も日本も主に外部の供給源に依存している。これは気候変動の問題とも密接に関わる。第4に、EUも日本も潜在的に不安定な隣国を抱えている。第5に、国際組織犯罪、例えば海賊や核の拡散、兵器の売買、サイバー攻撃、ドラッグなどの問題がある。これらの課題を共通して抱える地域は日本とEUだけであり、我々は以下の点で協力する機会を増やすよう努めていく必要がある。

まず、中国などある種のオルタナティブ・モデルの台頭によって脅威に晒されている自由貿易やオープンな市場の推進である。経済改革は我々の社会をよりダイナミックで、新たなテクノロジーに対応したものにする。再生エネルギーや新技術において日本や欧州の一部は世界のリーダーであるが、これらへの投資を促進しなければ近い将来困難に直面するだろう。EUには世界最大の国際再生エネルギー研究プログラムがあり、日本企業や研究者にも解放しているが、参加レベルは低い。

世界における貧困国と先進国の分断も共通して取り組むべき課題である。日本もEUも相当規模の開発援助を行ってきたが、アメリカも含めた協力によって、アフリカの経済発展にとってオルタナティブ・モデルがあることを示すことが重要だ。

平和構築および危機管理に関しては、アフガニスタンでの地元警察の強化、タジキスタンの国境管理、ソマリアの海賊対策での情報共有など、いくつかの分野で EU と日本は協力を開始している。しかし、EU と日本の平和構築・危機管理での協力においては、非常に良く似た価値観という、より広い共通の土台がある。EU が日本の安全保障上の脅威に対してこれまで以上の注意を払うことは可能であり、平和構築・危機管理は、これまでの活動をベースに我々の協力を発展させていく分野だと思われる。

最後に、民主主義、人権、核の不拡散、自由貿易、自由市場といった我々の基本的価値観を推進するために協力できることがある。欧州と日本の価値観を共通の声で国際的に発言していくことは、過小評価されるべきではない。

ではどうやってこれらを実現していくかだが、経済面では、現在我々は日本政府と FTA に関する協議を行っている。欧州委員会はこれに対して好意的だが、日本の協力がないと先に進めない。また、我々は関税の引き下げだけでなく、日本への外国投資が日本から欧州への投資よりも少ない原因にも取り組むべきで、この分野の開放を望んでいる。非関税障壁については、解決策はまだないものの、解決に向かう道筋についての日本の考え方を知りたい。例えば、自動車の安全性について我々が正しい基準を採用できれば、それぞれの市場における自動車のコストは 10% 低下する。自動車への非関税障壁は我々双方にとって関税障壁より重要である。医療設備については、我々が共に国際的な安全性の基準を適用すれば、コストが 20% 削減される。医療費が膨張している我々の国では効率化が必須であり、我々はこれによって財政支出を削減するチャンス逃してはならない。食品部門でも同様に、国際スタンダードに基づいて合意できる生産物が数多くある。他国の手本になるような良い FTA を締結するため、関税と非関税障壁の双方において日本と合意できる点を探しているところだ。我々は韓国やカナダともその交渉をしているため、それほど時間はないが、日本との FTA はより重要だ。

しかし他方で、プログラムには安全保障上の脅威にどう対応し、平和構築・危機管理でいかに協力できるかということに関する政治的合意がなければならない。我々は陸軍も海軍も持たないが、PKO に従事している。また科学・イノベーション、再生エネルギー、気候変動などの問題において、今の世界で日本と EU ほど良く似たパートナーはいない。テロやサイバー攻撃への対策でもより協力できるだろう。FTA が達成できれば、それは世界の他のパートナーに対し、我々がリアルなゲームができるというシグナルになる。しかし、政治的な協力なしにはこれらの共通の課題に立ち向かう主な機会を逃すだろう。政治と経済は並行して進められるべきだ。日本には政治と経済をリンクさせることを困難と見る向きがあるが、これは反対で、政治的合意と経済的合意は相互を容易にする。日本と EU の間には価値観の面で問題はなく、政治的合意と FTA が我々の活動を強化するプラットフォームになるだろう。

**渡邊啓貴氏コメント**

第 1 に中国についてだが、経済と同様に軍備も拡大しており、日本では非常に懸念されている。これと比べ EU はやや楽観的に思われるが、この点についてどう考えるか。第 2 に、中東やアフガニスタンにおける我々の協力、PRT についてである。日本もある程度は復興の実現に協力したいが、憲法的な制約がある。こうした制約の中で協力を深めていく方法について考えを伺いたい。第 3 に ASEM（アジア欧州会合）についてである。現在 ASEM がオーストラリアやロシアに加盟国を拡大しようとしていることについてどうお考えかお聞きしたい。

#### 鶴岡路人氏コメント

日本と EU の過去 10 年間、とくに 2001 年のアクション・プラン以来の関係を振り返ると、果たして何を達成できたのかという疑問を感じざるを得ない。我々の協力関係が深まらなかった最大の問題は、日本と EU の双方にお互いをどう“使うか”という発想が欠けていたことだろう。安全保障分野での日本と EU の最も重要な協力はソマリア沖の海賊対策である。EU と日本の間で上手く役割分担ができており、日本政府もこれを推進していく姿勢である。この協力の重要性はより強調されてもいいだろう。2 点質問だが、第 1 に FTA について、シーター氏はそれを包摂する政治的なフレームワークが必要だと述べられたが、日本と EU の間でより広い協力の枠組み合意は必要なのだろうか。また、政治的合意があるとどういう違いが生じるのか。第 2 に、EU と韓国の FTA にはどのような政治的なインプリケーションがあるのかお聞きしたい。

#### コメントに対するシーター氏の回答

##### 【渡邊氏のコメントに対する回答】

##### ①中国の台頭について

中国で 4 億人が貧困から脱出したのは、日本にとっても欧州や世界にとっても良いことであり、ポジティブな面もある。中国は決して一枚岩ではなく内部は非常に複雑だ。問題は透明性で、統計システムも問題だ。しかしかつての東欧も EU 加盟前はそうだったのであり、いかに中国を透明性の向上に向かわせるかが重要である。ヨーロッパの人々は中国の軍備増強を過小評価しているかも知れないが、日本の懸念を欧州で共有できるようにするためにも、透明性の確保において日本と EU が影響力を発揮することを提案したい。

##### ②アフガニスタンでの活動における日本の憲法的制約について

EU も日本と同様に軍隊を持たない。しかしアフガニスタンは明らかに紛争状態にあり、治安の問題は重要である。警察の訓練が日本と EU が協力できるエリアになり得る。

##### ③ASEM の拡大について

オーストラリアは新たなアジアの国家として将来 ASEM に加入しうるだろう。EU はオーストラリアおよびニュージーランドの ASEM 加入を後押ししていく。ロシアはヨーロッパなのかアジアなのか、確かなのは我々双方にとって隣人であることだけである。

### 【鶴岡氏のコメントに対する回答】

#### ①アクション・プランがなぜ機能しなかったか

アクション・プランが多くを達成しなかったことには同意する。だからこそ政治的フレームワークが必要なのである。長期のコミットメントが必要である。

#### ②ソマリアでの活動について

ソマリアはスタートであり、これを発展させるには 3 つのことがなされなければならない。第 1 は陸上での活動、第 2 にコンフィデンシャルな情報の交換に関する合意、第 3 に軍事的活動と文民活動の境界について、日本と EU は同様の問題を抱えているため、これをどう扱うかの原則に関する合意があれば有益だ。

#### ③韓国との FTA について

韓国とは政治的合意に達し、FTA でも合意できることを願うが、これは日・EU のモデルにはならない。

### 全体でのディスカッションの概要

#### ① グローバル化のネガティブな側面に対する政策面での協力

日本側発言

- ・ グローバル化は勝者だけでなく敗者も生み出すが、EU は社会から排除された人々に対する政策において優れており、この点で日本との協力ができれば素晴らしい。

シーター氏発言

- ・ 地域の発展のバランスと社会的結束は、日本との協力が考えられる領域である。EU 内では地域間の格差が 25 倍と非常に大きい。EU は社会的結束のための基金を創設し、地域や住民をグローバル化に適応させる取り組みを実験的に行っているが、この面での日本との将来の協力を提案したい。EU モデルも完全には機能していないからである。EU にとって、社会的部門の巨大化が許されない中で、いかに柔軟な労働市場と雇用の保障を両立していくかが課題である。

#### ② 文化などソフト面での日・EU 協力、および日・EU 間の人的交流の促進

日本側発言

- ・ 日本ではアメリカやアジアと比較してヨーロッパへの関心が相対的に低いですが、歴史や文化面での交流を促進してはどうか。
- ・ 日本も EU も少子高齢化問題を抱えており、若い世代の生産性を高める必要がある。日本の大学ではアジアからの留学生は多いがヨーロッパからは少ない。EU と日本の間で学生や若手研究者の交換留学の制度を拡充してはどうか。

シーター氏発言

- ・ これは得られる価値の大きさに対してそれほど費用もかからず、ぜひ投資を増やす分野

だろう。

### ③ 日本政府の規制緩和政策

日本側発言

- ・ 最近の日本政府の規制緩和政策についてどうお考えか。

シーター氏発言

- ・ 私は数年前に来日した時、日本の金融当局に投資銀行と商業銀行の垣根を取り払うべきだと主張したが、今は間違いだったと責任を感じている。
- ・ 日本はいくつかの分野で規制緩和を行うべきだが、国際スタンダードの受け入れに抵抗している省庁がいくつかある。EU と日本がお互いに国際スタンダードを受け入れ、それによってコストが下がるなら結構なことである。政府プログラムの一部はそれを推進しようとするものだが、現在それを実行できる政治状況なのかどうか。

### ④ 基本的価値観について

日本側発言

- ・ 共通の価値観、とくに民主主義や人権などの政治的価値観についてどう考えるか。韓国とEUの政治的協力は日本との関係より先行しているようだが、日本の政治情勢や政治的価値観は日・EU関係の障害になるのか。

シーター氏発言

- ・ 日本はアジアの国であるが、EUとの間に基本的な価値観において問題はない。我々は国連の基準を尊重しており、日本も含め、その基準に基づいて判断されるべきだと考える。いくつかの国との関係が先行しているが、だからこそ我々は急がなければならない。

### ⑤ 日・EU間のFDIについて

日本側発言

- ・ 日本とEUの間のFDIは非対称な状況にあり、EUから日本へのFDIは日本からEUへのそれより少ない。この原因として、非関税障壁など制度的・政治的障壁が存在するののか、あるいは自然の結果なのか。ヨーロッパが強い化学、自動車などの分野は日本では比較的開放されている。

シーター氏発言

- ・ M&Aに関するいくつかのルールが日本へのFDIの障壁になっている。EUと日本が合意し、お互いに外国企業に対して国内企業と同様の投資の権利を認めることができることを期待している。

### ⑥ 国際通貨システム、為替相場の不安定性

日本側発言

- ・ 我々に共通する問題の中では言及されなかったが、国際通貨システムや為替相場の不安

定性の問題がある。金融危機後、ドル、ユーロ、円などの相場は再び変動が大きくなっており、将来的に国際通貨システムをいかに安定させるかが課題である。

#### シーター氏発言

- ・ 為替レートの変動は基本的にファンダメンタルな構造とリンクしたものではない。世界の金融システムにおける真の問題は、アメリカとアメリカの経常収支赤字を補填している国々（主に中国）との間のインバランスで、これは持続不可能である。今アメリカで生じている民間貯蓄と投資へのシフト、中国における投資から消費へのシフトは、巨大なインバランスの是正が生じていることを意味している。EU と日本は G20 と緊密に連携し、この移行プロセスの結果として生じるであろうドルの下落と元の高騰に伴う為替相場のボラティリティのダメージを被らないように、この調整プロセスを管理しなければならない。我々の利害はアメリカと同じではない。

#### 日本側発言

- ・ 現在生じている経済構造の変化の重要性を主張したい。今回の金融危機はアングロ・サクソン型のガバナンスのモデルが失敗した結果として捉えられる。経済ではフローだけではなくストックが重要で、中国はフロー・ベースでは急成長しているが、ストック・ベースでの蓄積はまだそれほど大きくはない。日本や欧州は非常に大きなストックを持ち、またアングロ・サクソン型とは異なるガバナンス・モデルを有しているため、協力して金融システムやガバナンスの修正をリードすべきである。FDI もアジアにおける生産構造の変化と結びついている。中国の成長は日本や NIEs が部品を中国に輸出し、加工して輸出していることによるため、外部から見ると日本の影響力が大きく見えるのである。我々はこうしたことを考慮して協力を発展させていくべきである。
- ・ 安定性のために国際通貨システムの再構築が必要だ。これは EU と日本にとって共通の課題であり、我々がこれをリードすべきである。なぜなら基軸通貨国であるアメリカが変化を主導することはできないからである。中国のサポートも必要だろう。今や日本と中国、ドイツが世界最大の債権国である。国際通貨システムは経常収支赤字国のロジックではなく、黒字国のロジックで再構築されるべきである。

#### シーター氏発言

- ・ 我々が直面する真の危険性は金融の世界と世論との完全な断絶にあり、金融危機で両者の間の緊張が高まっている。EU のアドバンテージは内部に様々なシステムを抱え、これを管理していることにある。あるシステムが行き詰れば別のシステムにシフトしなければならず、アメリカもこれを理解していると思う。我々は EU の内部にもアングロサクソン・モデルとドイツやフランス型モデルの間の緊張関係を抱えている。この点でアメリカなど他の国からは聞けない見解を日本から聞くことができるかも知れない。

以上